

口頭説明受け手意識尺度の妥当性検証  
 - 説明の受け手に対する意識とコミュニケーション能力の関連-

辻 義人<sup>†</sup>

公立はこだて未来大学 システム情報科学部 メタ学習センター<sup>†</sup>

科学技術の発展は、日常生活に利便性をもたらした一方で、私たちはデジタル機器に関する理解と習熟を求めることとなった。現在、デジタル機器の急速な進歩と普及に関して、マニュアル活用の難しさに関する検討が行われている。

デジタル機器に何らかの問題が生じたとき、身近な詳しい人物 (Local Expert) による口頭説明が行われることがある。これまで、デジタル機器の問題解決に関して、マニュアル研究の分野から多くの検討がなされてきた。その一方、口頭説明によるデジタル機器の問題解決 (操作支援) については、必ずしも十分な知見が得られていない。この背景において、口頭説明場面における説明者と受け手との相互作用に注目し、説明者による受け手に対する意識について、口頭説明受け手意識尺度 (以下、口頭説明 AA (Audience Awareness) 尺度) が提案されている [1]。口頭説明 AA 尺度は、「わかりやすさ志向因子」と「説明調整因子」の 2 因子から構成される。まず、「わかりやすさ志向因子」とは、口頭説明の実施に際して、事前にどのように聞き手に適切な説明内容と表現を選択するか検討する意識である。また、「説明調整因子」とは、口頭説明の進行にともない、説明者が聞き手の反応 (言語、表情、動作など) にあわせて、適切に説明内容と表現を修正する意識である。なお、口頭説明 AA 尺度の妥当性の検証として、本尺度の高群と低群における説明プランの比較が行われている。その結果、本尺度得点の低群において、結論に相当する部分の出現比率が低く、説明内容の主題と関連が弱い補足情報の出現頻度が高い結果が得られている。しかしながら、口頭説明 AA 尺度の妥当性について、これまで十分な検討が行われていない。ここで、本研究では、説明活動を通じた情報伝達に関連する尺度として、学習メタ認知尺度 [2]、説明文書の書き手におけるメタ認知的知識尺度 [3]、コミュニケーション能力尺度 [4]、これらの 3 尺度に注目し、

口頭説明 AA 尺度の妥当性の検証を実施する。本検討を通して、口頭説明 AA 尺度の構成概念に関する基礎的な知見が得られることが期待される。

#### 方法

本調査は、2022 年 11 月に実施した。調査対象者は、大学生 121 名であった。無効回答を除外し、120 名分のデータを分析対象とした。調査を実施した尺度と、その構成概念について以下に述べる。

- ・口頭説明 AA 尺度 (5 件法) : 「わかりやすさ志向因子 (5 項目: 口頭説明に向けた十分な事前準備の意識)」と「説明調整因子 (5 項目: 説明の進行にともない聞き手に合わせた説明内容と表現の修正を行う意識)」から構成される。回答結果について、中央値を基準に、各因子の高群と低群 (計 4 群: 各 2 群×2 因子) を設定した。
- ・学習メタ認知尺度 (4 件法) : 適切な学習方略の選択に関する尺度である。9 項目であった。
- ・文章産出におけるメタ認知的知識尺度 (5 件法) : 説明文章の産出について、「伝わりやすさ因子 (7 項目: 文の構成、論点、まとめなど、文章構成に関する意識)」、「簡潔性因子 (4 項目: 文章の長さ、簡単な表現に関する意識)」、「読み手の興味関心因子 (3 項目: 読み手の知識や経験、興味を引くことに関する意識)」、これらの 3 因子から構成される尺度である。
- ・コミュニケーション能力尺度 (6 件法) : チームワークを構成する下位概念の一つとして提案された尺度である。「解読因子 (7 項目: 発言・表情・しぐさ等に注意し、意味を読み取る意識)」、「記号化因子 (6 項目: 発言・表情・しぐさ等を用いて苦労なく他者と交流できる意識)」、「主張因子 (4 項目: 自身の気持ちや考え、苦情などを伝えることに困難を感じる意識)」の 3 因子から構成される尺度である。

なお、調査に際して、口頭説明を行う頻度や得意度等についても質問を行っている。しかし、本報告では分析対象から除外した。

#### 結果と考察

口頭説明 AA 尺度と関連尺度との相関分析: 口頭説明 AA 尺度の妥当性検証に際して、関連する尺度との相関分析を実施した。その結果、口頭説

Validation of the Verbal Explanation Receiver Awareness Scale-Relationship between Information Receiver Awareness and Communication Skills-

<sup>†</sup> Yoshihito Tsuji: Future University Hakodate

明 AA 尺度に関して、いくつかの有意な相関が認められた(表 1)。なかでも、読み手の興味関心 [4]・わかりやすさ志向 [5] ( $r=.32, p<.01$ ) は、説明活動のプラン構築に際して、説明の受け手に対する意識が働いていることを示す。次に、読み手の興味関心 [4]・説明調整 [6] ( $r=.52, p<.01$ ) は、説明文章の産出と口頭説明のどちらにおいても説明の受け手に対する意識が働いていることを示す。また、説明調整 [6]・記号化 [8] ( $r=.32, p<.01$ ) に関して、記号化とは、発言・表情・しぐさ等を用いた他者との円滑な交流である。この結果より、聞き手の反応にあわせた説明内容と表現の修正を行うには、口頭説明場面における説明者と聞き手が考えや意見について交流できる対話環境が必要である可能性が示された。

**口頭説明 AA 尺度の高低間における関連尺度得点の比較**：口頭説明 AA 尺度の高低間における尺度得点について、二要因分散分析による比較を実施した。その結果、学習メタ認知尺度の得点について、説明調整要因に主効果が認められた ( $F(1, 120) = 8.597, MSe=12.176, p<.01$  : 高群 > 低群)。また、交互作用に有意傾向が認められ ( $F(1, 120) = 2.930, MSe=12.176, p=.09$ )、単純主効果検定を実施した。その結果、「説明調整因子・高群」において、「わかりやすさ志向因子・低群」の得点が高かった ( $p<.01$ ) (図 1)。学習メタ認知尺度は、学習者自身の効率的な学習プロセスの監視と制御に関する概念である。この分析結果は、口頭説明の事前準備を最低限にとどめ、聞き手の反応に合わせて説明内容と表現の意識を調整する意識が強い説明者は、説明者自身が、メタ的な観点に基づく学習活動を行っていることを示す。この理由として、説明者自身が効果的であると考えられる学び(操作支援)について、口頭説明の聞き手に対して行っていることが考えられる。しかしながら、本調査の結果は、調査協力者の自己評価に基づくも

のである。今後、本尺度の高低間における口頭活動の違いについて、さらに検討を実施する必要があるものと考えられる。

**本研究の結論**

口頭説明 AA 尺度の妥当性について、関連する尺度との相関が認められた。また、本尺度の高低間において、口頭説明の働きかけが異なる可能性が示唆された。今後、口頭説明 AA 尺度の高低における口頭説明の様相の検討が求められる。

**引用文献**

- [1]辻義人, 口頭説明受け手意識尺度の構成概念の検討と妥当性の検証- 説明文章研究から得られた知見に基づく心理尺度の検討- . 日本教育心理学会第 62 回総会発表論文集, 2020
- [2]市原学・新井邦二郎, 数学学習場面における動機づけモデルの検討- メタ認知の調整効果- . 教育心理学研究, 2006, Vol. 54(2), pp. 199-210
- [3]崎濱秀行, 文章産出スキル育成の心理学. 2013, ナカニシヤ出版, 京都
- [4]相川充・高本真寛・杉森伸吉・古屋真, 個人のチームワーク能力を測定する尺度の開発と妥当性の検討. 社会心理学研究, 2012, Vol. 27(3), pp. 139-150

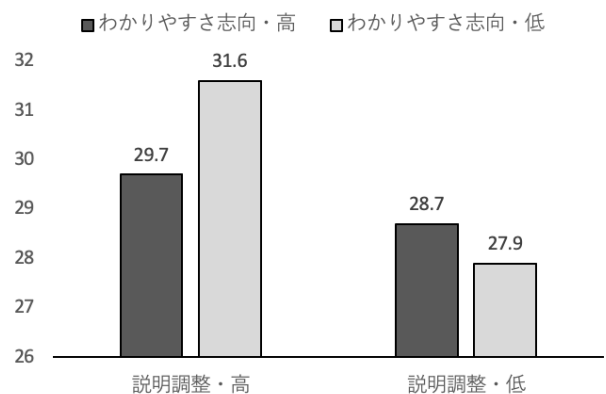


図 1 口頭説明 AA 尺度の高低間 (4 群) における学習メタ認知尺度得点の比較 (得点範囲 : 9~36 点)

表 1 口頭説明 AA 尺度と関連する尺度 (各因子) との相関分析の結果

尺度	因子	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)
学習メタ認知尺度	(1)	1								
文章産出メタ認知尺度	F1: 伝わりやすさ (2)	0.22*	1							
	F2: 簡潔性 (3)	0.14	0.05	1						
	F3: 読み手の興味関心 (4)	0.29**	0.41**	0.23*	1					
口頭説明AA尺度	F1: わかりやすさ志向 (5)	0.22*	0.23*	0.06	0.32**	1				
	F2: 説明調整 (6)	0.25**	0.21*	0.15	0.46**	0.52**	1			
コミュニケーション能力尺度	F1: 解読 (7)	0.12	0.26**	0.09	0.26**	0.17	0.28**	1		
	F2: 記号化 (8)	0.18*	0.26**	0.20*	0.43**	0.23*	0.32**	0.45**	1	
	F3: 主張 (9)	0.08	-0.02	-0.07	-0.03	0.10	0.06	0.09	-0.20*	1

(N=120, \*\*:p<.01, \*:p<.05)